

令和 2 年 9 月 14 日現在

機関番号：33501

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2016～2019

課題番号：16K04501

研究課題名(和文) イギリスにおける中等教員養成改革に関する歴史的研究

研究課題名(英文) Historical Research on the reformation of secondary teacher education in England

研究代表者

本多 みどり (Honda, Midori)

帝京科学大学・教育人間科学部・教授

研究者番号：00342329

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,300,000円

研究成果の概要(和文)：イギリスにおける中等教員の近代的教職改革は、主にCollege of Preceptors(COP、1846年創設)に集結した中産階級学校の教師の手で行われた。本研究はCOP創刊のEducational Times(ET)を通覧することによってメンバー全体の意見を概観し、各主張の相対化を試みた。教育の科学という言葉の登場と共に、教師養成の場に関する議論は、1870年代以降に進展した。中等教員養成の場として、COP内では、独自の専門的養成機関が提案され設立されたが成功せず、大学に設けられたトレーニング・カレッジが一般化した。特に、学位取得が難しい女性のためのカレッジが繁栄した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

イギリスの中等教育における近代的教職改革に関する研究は、国内外ともに少なかった。教職改革を中心的に行ったカレッジ・オブ・プリセプターズ(COP)に関する研究、オールドリッチによる初代教育学教授ペインを中心とした研究があるが、COP全体の言説空間についての研究はあまりなされていない。そこで本研究では、デジタル化されたEducational Times紙を用い、教育学の中身の創出と教職改革の言説空間を分析した。COPにおける議論が、制度の創出、維持につながっていたことを明らかにした。

研究成果の概要(英文)：The modern reform of the secondary teacher education in the Great Britain was made mainly by the members of College of Preceptors (being almost comprised of schoolmasters) in the 19th century. This research has revealed how the discourse of the members of COP was like and what kind of practice was made by using the Educational Times (COP's official paper). The discourse about the reform of the secondary teacher education had come about mainly from 1870's with the discourse of "science of education", a prototype of pedagogy. In 1880's some training colleges were made in the Universities and in 1890's a training college of secondary teacher for men was made by the COP but it was closed soon. The reform of the secondary teacher education in the 19th century benefited mainly to the women students.

研究分野：イギリス教育史

キーワード：イギリス 教育史 中等教育 教師教育

本多みどり【研究成果】

1. 研究開始当初の背景

イギリス・ヴィクトリア期における女子中等教員養成について研究する中で、中等教員養成の理念・内容は、女性教師たちに発したのではなく、他の男性教師たちの意志と言説に起源をもつものではないかと考えるようになった(教師養成に熱心に取り組んだ女性校長フランシス・メアリー・バスの言動から推測)。そこで、教職改革を望んだ中産階級子弟のための学校の男性教師が集結していたカレッジ・オブ・プリセプターズ(COP)について研究を始めた。その結果、同カレッジのジョゼフ・ペインと C.H.レイクという2人のメンバー(ともに学校長)が中心人物であることがわかった。本研究では、主に COP が発行した *The Educational Times* を使用して、ペイン・レイク両者の言説、および、他メンバーの中等教育学校の教師養成への関心、またどのような言説が残されているかを調査した。

2. 研究の目的

本研究では、19世紀、とくに、1840年代から1890年代のイギリスに焦点を当て、中産階級出身の子弟のための学校で働く教師たちが、自らの職業の質的向上を実現させるため、どのような言説をもって、教師養成を行おうとしたかを、彼らが発行した *The Educational Times* 紙(1847年10月~1922年12月)を主要史料として検証する。教師養成を行う際に、どのような内容をもって行うべきかという議論と実践の歴史は、教育学の誕生と成長そのものである。教育学の学的成立の過程の詳細を明らかにすることも本研究の目的である。

3. 研究の方法

この分野に関する先行研究の主なものは、ヴィンセント・チャップマンによる COP 通史(1985)、および、リチャード・オールドリッチによる『19世紀イギリス・ヴィクトリア期の学校と社会 ジョゼフ・ペインと教育の新世界』(1995)である。これらの先行研究、および先述した *The Educational Times* 紙、9大パブリックスクールを除く中産階級のための学校を初めて全国調査した学校調査委員会(1864-1868)による議会報告書¹、また、カレッジ・オブ・プリセプターズ(後述)議事録などの一次史料を適宜使用する。

4. 研究成果

イギリスにおける中等教員の近代的教職改革は、中産階級出身生徒のための学校教師、特に、カレッジ・オブ・プリセプターズ(COP、1846年創設)に集結した教師達の手で本格化

した。主要な COP 研究者は、V. チャップマン (通史) と R. オルドリッチである。オルドリッチは、COP において「教育学教授」に選ばれた J. ペイン (中産階級学校長) に焦点を当て、当時の学校と社会の再構成、およびペインのイギリス教育史への定位を試みた。本研究はオルドリッチを批判的に継承し、ペインが属した急進派の主張だけでなく、COP が 1847 年に創刊した Educational Times (ET、2015 年からデジタルデータ化) を通覧することにより、メンバー全体の意見を概観して急進派の主張の相対化を試みた。ET の検討によれば、教育の科学という言葉は、創設まもない 1848 年においては教育の哲学的知識という意味で使用されていた。その後、同語は見出しには現れず、1870 年代以降にペインと C.H. レイク (中産階級学校長) によって「心理学を基礎とする専門的学問としての教育科学」、「動物学の中に位置づけられる科学」という主張が COP 内で認知され、専門的教職教養の柱として定着したことがわかった。教師養成において何を教えるべきかという議論は、COP の中ではペインとレイクの議論を発端としていた。ただし、両者の主張には相違があり、ペインの「人間の本性に基盤を置くペダゴジーとしての教育の科学」、レイクの「動物行動学の中に定位される厳密な知としての教育の科学」という現代においても解決されていない問題を含んでいた (2019 年教育史学会紀要第 62 集掲載)。

教師養成の場に関する議論として、ET 初出の記事は、1848 年にオックスフォード大学出身の一教師の主張として現れ、大学の重要性が指摘していた。しかし、その後しばらく停滞し、1870 年代から進展し (下図参照) 1880 年代にはケンブリッジ大学において教師養成シンジケートが設立され、英国初の女子中等教員養成カレッジが創設されるに至った。COP が創設した男子中等教員養成カレッジは経済的支援を得られず閉鎖され、中等教員養成の場としては大学に設けられたトレーニング・カレッジが一般化したと言える。

【表】教師養成の記事 Educational Times 1847 年～1900 年 (一部)

1875 年 1 月 (新 165 号)	×なし	
1875 年 2 月 (新 166 号)	×なし	
1875 年 3 月 (新 167 号)	×なし	
1875 年 4 月 (新 168 号)	×なし	
1875 年 5 月 (新 169 号)	×なし	
1875 年 6 月 (新 170 号)	×なし	
1875 年 7 月 (新 171 号)	×なし	
1875 年 8 月 (新 172 号)	×なし	
1875 年 9 月 (新 173 号)		教育講座 (Chairs of Education) がエディンバラ大学に創設
1875 年 10 月 (新 174 号)	×なし	

1875年11月(新175号)	×なし	
1875年12月(新176号)	×なし	
1876年1月(新177号)	×なし	
1876年2月(新178号)	×なし	Union of Teachers (p.271)
1876年3月(新179号)	○あり	クイックによるトレーニング・コース：Introductory Lecture to the Fourth Year's Training Course of Lectures and Lessons on the Science and Art of Education. By Rev. R. H. Quick, M A. (p.290)

教師養成の学問的基盤が、ある程度、COP 内においてコンセンサスを得た 1870 年代に、教師養成に対する関心も集まり始め、1880 年代には大学に教員養成カレッジが創設された。トレーニング・カレッジで教授された内容は、一般教養、心理学、生理学、教育方法、教育史などの科目、外部の学校における教育実習、授業批評など実践的学習が行われた。これらの科目は、ペイン、レイクラが主導した教育科学に含まれていた学問領域で、COP のメンバー内におけるコンセンサスと一致していた。1880 年代において大学における教師養成が始まったことによって、独立したトレーニング・カレッジの需要は減退したと思われる。COP において長年懸案となっていた男子中等教員養成カレッジが、ようやく 1990 年代に COP によって設立されたにもかかわらず、3 年後には閉校になった。20 世紀になると、大学における教員養成が主流になる。養成の場は、学校、トレーニング・カレッジ、大学へと変化していったが、教師となる者は、何を学ぶべきか、というディシプリンに関する議論は、1870 年代から COP 内で、一定のコンセンサスを得ており、学校で行う実習のスタイルもほとんど変化していない。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 1件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 本多みどり	4. 巻 62
2. 論文標題 イギリスにおける「教育学教授」誕生の背景 「教育の科学」という言説に着目して	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日本の教育史学会	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計1件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 本多みどり
2. 発表標題 イギリスにおける「教育学教授」誕生（1873年） 「教育の科学」という言説に着目して
3. 学会等名 教育史学会
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
---------------------------	-----------------------	----